




川越守記念  北海道交響楽団
第100回演奏会

TRISTAN UND ISOLDE

2026年4月29日(水/祝)

17:00 開演 (16:30 開場) / 終演予定 20:10 頃

札幌コンサートホール Kitara 大ホール

-  **主催** 川越守記念 北海道交響楽団 <http://dokyoku.la.coocen.jp/>
札幌・苫小牧地区トヨタ販売会社グループ
(札幌トヨタ自動車株式会社、AGHTトヨタ札幌株式会社、
ネットトヨタ札幌株式会社、ネットトヨタ道都株式会社、
トヨタカローラ苫小牧株式会社、ネットトヨタ苫小牧株式会社、
トヨタモビリティパーツ株式会社)
トヨタ自動車株式会社
-  **協賛** カ=公益社団法人日本アマチュアオーケストラ連盟
-  **後援** 札幌市、札幌市教育委員会、一般社団法人北海道二期会、
札幌合唱連盟、日本ワグナー協会、北海道新聞社、
朝日新聞北海道支社、毎日新聞北海道支社、読売新聞北海道支社



arts in hearts
TOYOTA

第1968回
トヨタコミュニティコンサート

トヨタは“いい町・いい社会”づくりをめざし、
1981年からアマチュアオーケストラ活動を応援しています。



ごあいさつ

本日は「トヨタコミュニティコンサート in 札幌」にお越しいただき、誠にありがとうございます。

この度、「川越守記念北海道交響楽団第100回演奏会」が盛大に開催されますことを、心よりお祝い申し上げます。

川越守記念北海道交響楽団は、長年にわたり地域に根ざした音楽文化の発展に寄与され、多くの皆さまに感動と潤いを届けてこられました。その歴史ある節目の公演が、こうして多くの方々に迎えられることは、地域とともに歩む企業として、私どもにとっても大きな喜びでございます。

トヨタグループでは、1981年よりアマチュアオーケストラ活動を応援し、「音楽を通じた地域文化の振興」に努めてまいりました。本日の演奏会が、皆さまの心に残る豊かなひとときとなり、音楽の力が一層広がっていくことを願っております。

結びに、川越守記念北海道交響楽団の皆さまのさらなるご発展と、ご来場の皆さまのご健勝をお祈り申し上げます。今後も地域とともに歩む企業として、文化活動への支援に取り組んでまいります。

札幌・苫小牧地区トヨタ会 広報部会 幹事会社
AGHトヨタ札幌株式会社

代表取締役社長 西川友晴

川越守記念北海道交響楽団第100回演奏会開催にあたって

本日は当団の第100回演奏会に足をお運び頂き、誠にありがとうございます。

1980年9月、「北海道交響楽団」の設立以来、途中2017年に当時音楽監督であった川越守氏が逝去し、その後活動が停滞した時期もありましたが、2019年より名称を「川越守記念北海道交響楽団」と改め、客演指揮者を招聘する形として活動を続け、本日で第100回目の演奏会を迎えることが出来ました。

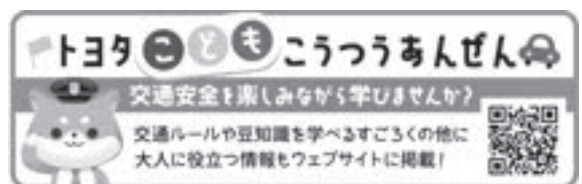
本日の指揮者は、当団が改称後最初に開催した第88回演奏会で共演した、中城良先生です。ワーグナーのオペラをこよなく愛する先生と、ワーグナーが音楽史上に大きな足跡を残した「トリスタンとイゾルデ」を、本邦を代表するソリストの皆さまと共演出来ることは、アマチュアオーケストラとして、この上ない喜びです。

本演奏会の開催のためご尽力頂きました、札幌・苫小牧地区トヨタ販売会社グループ様、トヨタ自動車株式会社様、御協力頂いた公益社団法人日本アマチュアオーケストラ連盟様、ワーグナーの合唱曲のために各団体から集まってくださった道響オペラコーラスの皆様、合唱指揮の大嶋先生に、心より感謝申し上げます。

当団名誉音楽監督川越守が当団のために遺した祝典序曲を皮切りに、夢のようなワーグナーの音楽体験をお届けしたいと思います。是非最後までごゆっくりお楽しみ下さい。

川越守記念北海道交響楽団

運営委員長 曾根輝雄



Program

指揮 中城 良

川越 守●祝典序曲(2000/道響20周年記念委嘱作品)(約12分)

オルガン・ソロ 吉村 怜子

ワーグナー●歌劇「タンホイザー」より 大行進曲 (約7分)

ワーグナー●歌劇「ローエングリン」より エルザの大聖堂への行列 (約7分)

合唱 道響オペラコーラス(合唱指揮:大嶋 恵人)

—— 休憩(20分) ——

ワーグナー●楽劇「トリスタンとイゾルデ」より

第1幕への前奏曲 (約8分)

第2幕 (約80分)

第3幕への前奏曲 (約5分)

第3幕より イゾルデの愛の死 (約8分)

トリスタン 片寄 純也

イゾルデ 田崎 尚美

ブランゲーネ 金子 美香

マルケ 岡元 敦司

メーロト

村山 武来

アンダースタディ 岡崎 正治(トリスタン)

倉岡 陽都美(イゾルデ)

岩村 悠子(ブランゲーネ)

ナレーター 菅野 愛

副指揮 山田 美穂

台本翻訳 中城 良

字幕操作 Zimakuプラス株式会社



弦楽器専門店 シャコンヌ

ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロの

販売、修理、レンタルなど。

音の良い楽器をお探しの方、弓の毛替、楽器の
音調整などお気軽にご来店下さい。

シャコンヌ札幌店

札幌市中央区北3条西1丁目1-1 札幌ブリックキューブ2階

TEL 011-221-2561

営業時間：10:00～18:30 日曜日曜日定休

祝 第100回演奏会



戸島健二郎建築設計
KENJURO TOJIMA ARCHITECTS

Profile



指揮：中城 良 *Nakajo Ryo : Conductor*

1995年東京生まれ。明治学院東村山中学校・高等学校を経て2017年東京音楽大学作曲指揮専攻(指揮)を卒業。大学主催の“打楽器教員コンサート”で日本を代表するフルート奏者、工藤重典氏とジョリヴェの協奏曲で協演。広島交響楽団定期演奏会にてエリザベト音楽大学合唱団を指揮し協演。2019年、2020年に川越守記念北海道交響楽団に初の客演指揮者として招かれマーラーとブルックナーの作品を指揮しデビュー。若手指揮者トライアウトコンサート2021に参加し、各プロオケから選ばれた奏者からなる特別編成のオーケストラを指揮し研鑽を積む。2022年にN響団友オーケストラと共演。

指揮を広上淳一、田代俊文に、作曲・和声・対位法・スコアリーディングを高橋裕に、ヴァイオリンを中村静香、上田敏子に、ピアノを阿部薫、小菊馨子、高橋雅代、廣野まや子、オペラを竹之内純子の各氏に師事。

現在、PRIEM WIND ENSEMBLE常任指揮者。ワーグナーの音楽をこよなく愛する。

道響とは、2019年の第88回演奏会(マーラー／交響曲第5番等)、2020年の創立40周年・第90回記念演奏会(ブルックナー／交響曲第8番等)、2024年の第97回演奏会(ブラームス／交響曲第2番等)に続き、4度目の共演となる。2025年よりイギリス・ロンドン交響楽団の首席指揮者であるサー・アントニオ・パッパーノ氏の元で研鑽を積む。今後、日本のオペラ界を牽引すると期待される若手指揮者である。



合唱指揮：大嶋 恵人 *Oshima Shigeto : Choral Director*

北海道教育大学、東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。様々なオペラに出演、指揮、プロデュースも行なう。勤務高校の合唱部を率い全国大会に出場。大学、一般の合唱団の発声、音楽指導においても高い評価を得ている。声楽、合唱の審査も多い。現在、札幌合唱団指導者。パッサコンチェルティノ札幌指揮者。札幌音楽家協議会会員。札幌合唱連盟顧問。東京藝術大学パッサコンタクトクラブOB会北海道支部長。市立札幌藻岩高等学校、北海道インターナショナルスクール講師。



トレーナー：河邊 俊和 *Kawabe Toshikazu : Trainer*

4歳からヴァイオリンを始め、1979年全日本学生音楽コンクール東日本大会第2位。東京音楽大学に特待生入学、90年第4回日本モーツァルト音楽コンクール入選。卒業後に渡独、ケルン音楽大学在学中に第2回クールシオン国際コンクール(フランス)ファイナリストとなる。93～95年九州交響楽団コンサートマスターを務める。2000年札幌交響楽団に第2ヴァイオリン首席奏者として入団、05年から第1ヴァイオリン奏者として現在に至る。現在はオーケストラ奏者としての活動を中心に、ソロや室内楽、各地の弦楽アンサンブルでのソリストとしての演奏、後進の指導やコンクールの審査員なども務める。帯広才養音楽教室第2副科特別非常勤講師。



トレーナー／副指揮：山田 美穂 *Yamada Miho : Trainer/Assistant Conductor*

北海道教育大学札幌校芸術文化課程音楽コースにクラリネット専攻で入学。3年次より作曲専攻に転向し卒業。演奏や指導、及び作曲・編曲等で幅広く活動中。2017年度北の聲アート奨励賞を受賞。クラリネットを高鹿昶宏、渡部大三郎、作曲を南聡、指揮を中村隆夫の各氏に師事。Kanon、北海道作曲家協会、ハイメスアーティスト各会員。ノルト・シンフォニカー常任指揮者。札幌コダイ合唱団副指揮者。2010年度より、新得町新内ホールコンサートのコーディネーターを務めている。

ご案内

第101回演奏会(指揮：長岡聡季) <7月中旬発売開始予定>

2026年10月18日(日) 19:00開演 札幌コンサートホールKitara 大ホール

お問い合わせ ☎011-731-2854(清水/夜間) Mail: dokyo1980jim@nifty.com

道響ホームページ



Profile



トリスタン(テノール)：片寄 純也 *Katayose Junya : Tenor*

国立音楽大学声楽学科卒業。

ヴェルディ作曲オペラ『椿姫』のアルフレード役に抜擢されオペラデビュー。

2002年二期会創立50周年記念『ニュルンベルクのマイスタージンガー』に出演以降、世界的にも貴重な力強く輝かしい響きを持ったリリコスピントテノールとしてオペラの舞台に数多く出演。2011年2月二期会公演シュトラウス作曲『サロメ』ヘロデ王役、2012年5月飯守泰次郎指揮『さまよえるオランダ人』エリック役、同年7月二期会創立60周年記念レオンカヴァッロ作曲『パリアッチ』カニオ役、同年9月二期会、バルセロナ・リセウ歌劇場、チューリッヒ歌劇場共同制作ワーグナー作曲『パルジファル』タイトルロールと立て続けに出演。さらに2014年7月杉並区民オペラ主催公演ヴェルディ作曲『アイダ』ラダメス役、2015年10月新国立劇場公演ワーグナー作曲『ラインの黄金』フロー役、2016年11月二期会公演シュトラウス作曲『ナクソス島のアリアドネ』テノール歌手／バックス役、同年12月北海道二期会公演マスカニ作曲『カヴァレリア・ルスティカーナ』トゥリッドゥ役、2017年5月日フィル定期ワーグナー作曲『ラインの黄金』フロー役、同年6月愛知祝祭管弦楽団公演ワーグナー作曲『ワルキューレ』ジークムント役、2018年7月二期会公演ウェーバー作曲『魔弾の射手』マックス役、2019年6月二期会公演シュトラウス作曲『サロメ』ヘロデ王役、2021年2月二期会公演ワーグナー作曲『タンホイザー』タイトルロール、2022年3月東京・春・音楽祭子供のためのワーグナー作曲『ローエングリン』タイトルロール、2023年3月同『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ヴァルター役、2024年2月・3月二期会創立70周年記念ワーグナー作曲『タンホイザー』タイトルロールなど多数出演。

また2006年から文化庁助成舞台芸術鑑賞体験事業ビゼー作曲オペラ『カルメン』ドン・ホセ役で毎年、全国各地を巡回している。

『パリアッチ』の公演はNHK-BSで放映され、『魔弾の射手』の公演はNHK-FMで放送された。

またタイプの違う3人のテノールで構成された青薔薇海賊団のメンバーとして活動中でCDとDVDを発売している。

東京二期会会員。



イゾルデ(ソプラノ)：田崎 尚美 *Tasaki Naomi : Soprano*

福島県会津若松市出身。東京藝術大学卒業(アカンサス音楽賞及び同声会賞)、同大学院音楽研究科修士課程(オペラ専攻)修了。2012年『パルジファル』(飯守泰次郎指揮)クンドリで圧倒的な存在感を示し二期会デビュー、以降『イドメネオ』エレットラ、『ナクソス島のアリアドネ』プリマドンナ/アリアドネ、『サロメ』サロメ、『トゥーランドット』トゥーランドット、『タンホイザー』エリーザベト、『影のない女』バラクの妻、などを演じ豊かな表現力と美しさを携えた声で高い評価を得る。日生劇場『ルサルカ』ルサルカ、『マクベス』マクベス夫人、『魔笛』侍女1。びわ湖ホール『ワルキューレ』ジークリンデ、『神々の黄昏』第三のノルン、『パルジファル』クンドリ、『ばらの騎士』元帥夫人や、全国共同制作オペラ『こうもり』(野村萬斎演出)ロザリンデなど数多く出演。新国立劇場、兵庫県立芸術文化センター『さまよえるオランダ人』ゼンタでも好評を博した。『パルジファル』クンドリ、『サロメ』『トゥーランドット』題名役、『さまよえるオランダ人』ゼンタは異なるプロダクションで出演を重ねている持ち役である。東京春祭、京都子どものためのワーグナー(カタリーナ・ワーグナー監修)にも2019年の『さまよえるオランダ人』ゼンタ以降、『パルジファル』クンドリ、『ローエングリン』エルザ、『マイスタージンガー』エファ、『トリスタンとイゾルデ』イゾルデを演じ、連続で出演を重ねている。NHK-FMリサイタル・ノヴァ、NHKニューイヤーオペラコンサートにも出演。ベートーヴェン「第九」、「ミサ・ソレムニス」マーラー「交響曲第4番」、「千人の交響曲」、メンデルスゾーン「エリア」、ヴェルディ「レクイエム」などコンサートリストとしても活躍。2026年1月、東海市芸術劇場『蝶々夫人』題名役で出演。二期会会員。

みよこの
さつぽろ

おかげさまで57年

信州 信州 信州
花尻ジギスカン

平和ステージ・オフィス
Heiwa Stage Office

office-p@r7.dion.ne.jp
011-665-0675
<https://heiwa-stage.jimdoweb.com/>

Profile



ブランゲーネ(メゾ・ソプラノ)：金子 美香 Kaneko Mika : Mezzo soprano

東京音楽大学を首席で卒業。同大学院を経てザルツブルクモーツァルトウム音楽院マスタークラス修了。二期会オペラ研修所マスタークラス修了時に優秀賞を受賞。

第18回奏楽堂日本歌曲コンクール第3位入賞。第15回日仏声楽コンクール第2位及び日本歌曲賞受賞。平成24年度山口県芸術文化振興奨励賞受賞。

オペラでは2008年二期会『ワルキューレ』グリムゲルデでデビュー後、『ウリッセの帰還』『オテロ』『魔笛』、横須賀芸術劇場オペラ宅急便シリーズ『霊媒』『泥棒とオールドミス』などいずれも好評を博した。また新国立劇場『ワルキューレ』『カルメン』『さまよえるオランダ人』(マリーに急遽歌唱のみで出演)『ジュリオ・チェザレ』『ボリス・ゴドゥノフ』、2025年1月『さまよえるオランダ人』に再び出演。東京・春・音楽祭のワーグナーシリーズ『ラインの黄金』『ワルキューレ』『神々の黄昏』、子どものためのワーグナーシリーズ『さまよえるオランダ人』『ローエングリン』『ニュルンベルクのマイスタージンガー』『パルジファル』『トリスタンとイゾルデ』、日生劇場『ルサルカ』『魔笛』、びわ湖ホール『神々の黄昏』等に出演し、存在感ある美声と高い音楽性、充実した歌唱でいずれも高い評価を得ている。

2018年にはバイロイト音楽祭『ワルキューレ』(プラシド・ドミンゴ指揮)に出演という快挙を成し遂げた。また2025年台湾国立交響楽団オペラコンサートシリーズ『さまよえるオランダ人』に招聘された。コンサートではヘンデル「メサイア」、バッハ「口短調ミサ」「マタイ受難曲」、モーツァルト「レクイエム」、ベートーヴェン「第九」「ミサ・ソレムニス」、メンデルスゾーン「エアリア」「真夏の夜の夢」、ヴェルディ「レクイエム」、マーラー3番など国内主要オーケストラと多数共演。NHKニューイヤーオペラコンサート、NHK-FM等にも出演。2018年には初ソロアルバム「南天の花」でレコード芸術特選盤、音楽現代推薦盤に選出された。2026年6月新国立劇場『エレクトラ』に出演予定。二期会会員。



マルケ(バリトン)：岡元 敦司 Okamoto Atsushi : Baritone

国立音楽大学首席卒業、東京芸術大学大学院修士課程修了、パルマ、フェラーラ、ボローニャ各国立音楽院にて年間ディプロマ取得。オルテ・バロック音楽、ウィーン国立音楽大学マスタークラスを声楽最高位でディプロマ取得。

国内で最も優秀な音楽大学学生に贈られる皇居内桃華堂御前演奏会に招かれ、その後渡伊、イモラ・セルサンティ劇場で『フィガロの結婚』でデビュー、フォルリ・ディエゴ・ファップリ、ジョヴァンニ各劇場にて『リゴレット』、チェント市立歌劇場、アルテード野外劇場では『椿姫』に出演、またローディ・ロッシニ歌劇場での『リゴレット』ではL'Opera誌にて“輝きのある高貴な声”と評される。国内では東京室内歌劇場主催公演『流刑地にて』『秘密の結婚ナポリ版』『ラ・カリスト』『ル・グランマカーブル』『ゲノフェューファ』、荒川バイロイト主催『ヴァルキューレ』、北海道二期会主催『ラ・ボエーム』『アイダ』『皇帝ティートの慈悲』『こうもり』、hitaruオペラプロジェクト『椿姫』『蝶々夫人』『フィガロの結婚』『ドン・ジョヴァンニ』に主要キャストとして出演し、好評を得る。他に『コジ・ファン・トゥッテ』『魔笛』『セヴィリアの理髪師』『アルジェのイタリア女』『チェネントラ』『絹のはしご』『ドン・バスカーレ』『愛の妙薬』『ランメルモールのルチア』『リゴレット』『マクベス』『トロヴァトーレ』『シモン・ボッカネグラ』『蝶々夫人』『トスカ』『ジャンニ・スキッキ』『西部の娘』『外套』『カルメン』『ホフマン物語』『放蕩息子』『メリー・ウィドー』『ヘンゼルとグレーテル』『スザンナの秘密』『電話』『アメデオ』『夕鶴』『卍』『瘋癲老人日記』『函館戦争』『てかがみ』の主要キャストとして出演し、その幅広いレパートリーと演技、歌唱力は評価が高い。

卒業時に矢田部賞、NTTドコモ賞、F・アルバネーゼ国際声楽コンクール特別好演賞、W・リヒター記念ベーゼンドルファー国際音楽コンクール第2位、第22回ハイメスコンクール第1位。第2回座間日本歌曲コンクール第2位、平成23年度文化庁新進芸術家海外研修生、北海道二期会理事、hitaruオペラアドヴァイザー、北翔大学教育文化学部教育学科音楽コース准教授、北海道教育大学芸術スポーツ文化学科、札幌大谷大学音楽学科各講師、ミブロムジカ主宰。

損害保険・生命保険のエージェント

東京海上日動火災保険
東京海上日動あんしん生命保険

代理店

安心は「愛」

ATM保険事務所

札幌市東区北23条東6丁目3-14
TEL 722-5000/FAX 722-5001

<https://www.tmn-agent.com/atm/>



Profile



メーロト／クルヴェナール(テノール)：村山 武来 Murayama Burai : Tenor

理学博士。日本学術振興会特別研究員として北海道大学にて理論化学と応用数学の分野横断的研究に従事する一方、札幌を拠点に活動するテノール。

苫小牧市立青翔中学校合唱部、北海道札幌北高等学校合唱部、北海道大学合唱団に所属し、中高大を通じて合唱に取り組んだ。特に北大合唱団時代はSec.Tenorのパートリーダーを務め、全日本合唱コンクール金賞受賞に寄与した。合唱で培われたアンサンブル及びハーモニーへの感覚と、日本語テキストへの繊細な感性が現在の音楽づくりの基礎となっている。

元々はバリトンであったが、近年テノールへと転向した。ヘンデル『セルセ』や『メサイア』、ハイドン『天地創造』など宗教曲・オラトリオのアリアをはじめ、トスティの『Ideale』『Entra!』『Good Bye!』などの歌曲、ハンドリー『The Astronomers』といったアメリカのアートソングなど、イタリア

語および英語による多彩なレパートリーを取り上げる。最近ではモーツァルト『ドン・ジョバンニ』『イドメネオ』からのテノールアリアにも取り組み、オペラとコンサートの両面で活動の幅を広げている。ミオペラ第1回公演『ジャンニ・スキッキ』グッチョ役、LCアルモーニカ『アンドレア・シェニエ』新聞売り役、第2回hitaruオペラプロジェクト『ドン・ジョバンニ』騎士長役アンダースタディのほか、『トスカ』『こうもり』などの公演に合唱として出演。ボストン短期留学中にはニューイングランド音楽院にてJean Danton氏に師事し、教会音楽の解釈に大きな影響を受ける。Roxbury Presbyterian Churchの日曜礼拝で礼拝歌手を務め、現地の聴衆から好評を博した。

第8回コンクールシュールレファイナル：声楽グランミュージズ②部門にて部門優秀賞およびテレビ北海道賞。第69・75回全日本学生音楽コンクール北海道大会入選。第33回クラシック音楽コンクール全国大会入選。第3回プリマヴェーラ声楽コンクール本選入選。第11回苫小牧新人音楽祭出演。これまでに畠山洋子、清水邦典、尾崎あかりの各氏に師事し、現在は岡元敦司、常森寿子の両氏のもとで研鑽を積む。理論化学と応用数学の分野で複雑な体系を読み解き統合する姿勢を音楽にも活かし、作品全体の構造とハーモニー、テキストの相互作用を精密に捉えた解釈を土台とする。そのうえで、「自己が構築した理論を自己の精神が逸脱する」瞬間を観測するために歌い続けている。



第99回演奏会 / ラヴェル「ダフニスとクロエ第2組曲」(指揮=加納明洋、2025年10月19日 Kitara大ホール)

管弦楽：川越守記念 北海道交響楽団 Kawagoe Mamoru Memorial Hokkaido Symphony Orchestra

札幌市を拠点に活動し、古典から現代までの幅広いレパートリーを持つ北海道内最大級(4管編成)のアマチュアオーケストラ。1980年9月、「北海道交響楽団」として設立。81年3月の第1回演奏会以来2016年まで、ほぼすべての演奏会を故・川越守氏の指揮で開催した。2019年より名称を「川越守記念 北海道交響楽団」と改め、客演指揮者を招聘する形とし、これまでに中城良、本多優之、板倉雄司、長岡聡季、加納明洋の各氏の指揮で演奏会を開催している。現在までに99回のナンバー演奏会、9回のトヨタコミュニティコンサート、49回のプチコンセル(室内楽と管弦楽による無料コンサート)などを開催した。これら自主公演の他、ベートーヴェンの第九交響曲、オペラ、バレエなど、他団体との共演にも積極的に取り組み、活発な演奏活動を続けている。

2010年10月には創立30周年を記念し「トヨタコミュニティコンサートin札幌〜ワーグナー『指環』への誘い」を開催。12年5月にはフランスのバリリオンにおいて、地元合唱団との合同演奏会を行い、聴衆からの高い評価を得るとともに、国際交流を深めた。15年5月には、名寄市民文化センターEN-RAYホールのこけら落とし公演「名寄の第九」を市民合唱団とともにやっている。16年5月には「創立35周年記念・第80回演奏会」においてマーラー／交響曲第2番「復活」を演奏し、大好評を博した。84年・86年札幌市民芸術祭賞、94年札幌市民文化賞、95年・99年札幌市民芸術祭大賞、98年・01年・08年札幌市民芸術祭奨励賞を受賞。

川越守名誉音楽監督のもと長年にわたり培ってきた「楽しんで演奏する」「楽団の音色を持つ」「難曲、大曲にも果敢に挑む」という姿勢のもと、ますます多彩な曲目に取り組み、多くの市民の皆様と音楽の楽しさを共有する楽団として、より一層充実した活動を進めている。

Program note

川越 守(1932~2017)●祝典序曲(2000)

正に、祝いの為の作品である。道響のメンバー全員で演奏できるものという点での作曲で、これほど大掛かりなものを私は書いたことがない。

団の歩みを振り返ってみると、最初の5年間は、メンバーの確保、練習場の獲得などで大変に苦勞した。そんな中での札幌市の芸術祭の大賞受賞[S.59年]は、団の活動継続への足掛かりとなったように思う。

練習場は中央区の区民会館を使っていた時期がある。たまたま、私の小さな家がある近くにあり、そこにティンパニーや、譜面台を置いていた。練習の度に、区民会館までそれらを皆で運んでいくのだが、はしたな労働ではない。それから練習である。まことに疲れる業、よく続いたものだ。と今、あらためて感心している次第。

音楽は音色を楽しむもの。良い音色は誰をも楽しませる。今、この楽団の音色は大変に良い。いつまでも、この音色を持ちつづけていってもらいたい。この音色によって、多

分、我々の音楽はヨーロッパでも楽に受け入れてもらえるだろう。

あれや、これやと、来しかたを考えて今回の曲作りとなった。肅々とした祝いの表情も音楽にはなるのだが、我々の場合には、[ヨサコイ]ではないが、踊り狂うのも良いのではないかと、ということで、曲の中身を舞曲調にした。西洋音楽＝音楽としてやってきた我が国の場合、今日いろいろと問題があるようである。とにかく、我々のものを作り出す必要はあるだろう。邦楽の世界そのものから今日のもので生まれれば良いし、西洋を取り入れたのだから、和洋折衷のもので良いだろう。[現代]にとられる必要はない。こんなことを考えての作品でもある。曲の終わりに、曲頭の部分をオルガンと大管弦楽団の大合奏で再現させた。

祝典にふさわしい、良い雰囲気会場に作り出されることを期待したい。
(川越 守)

※2000年9月23日開催「創立20周年記念・第39回演奏会」プログラムより再掲



名誉音楽監督・作曲：川越 守 *Kawagoe Mamoru : Honorary Music Director / Composer*

1932年札幌に生まれる。北海道大学教育学部在学中より、北大交響楽団の再建に力を尽くし、常任指揮者として導いてきた。また80年には道響の設立にあたり団長・指揮者を務め、その後音楽監督として精力的に指揮・指導した。

作曲活動にも意欲的に取り組み、両楽団の他、地域の演奏団体、劇団、学校などのために、北海道の風土に根ざした多くの楽曲を遺した。生涯作曲数は管弦楽曲・劇音楽を中心に230曲を超え、道響のためにも「幻想曲“秋風”」「祝典舞曲II」「祝典序曲」(創立20周年記念)を作曲、初演した。84年札幌市民文化奨励賞、86年北海道文化奨励賞、2008年札幌芸術賞受賞。2017年12月9日永眠。

ワーグナーについて

○はじめに

リヒャルト・ワーグナー(1813-1883)は、ドイツ・ロマン派を代表する巨匠であり、オペラにおける「詩・音楽・演劇」の完全な融合を目指した「楽劇(ミュージックドラマ)」の創始者として知られる作曲家です。また、キャリアの早期には指揮者として活躍したほか、自作歌劇の台本の執筆や多くの論文を残す文筆家としても知られ、当時のヨーロッパの様々な分野に影響を及ぼしました。

彼の音楽は、従来の番号付きオペラの形式を打破し、途切れることなく音楽が流れる「無限旋律」や、登場人物や感情を特定の旋律で表す「示導動機(ライトモチーフ)」といった手法を駆使したことで知られます。また、本日の演目である「トリスタンとイゾルデ」における革新的な和声法は、後期ロマンや現代音楽に至るまで多大な影響を与えました。

本日は「歌劇」と「楽劇」の抜粋を演奏いたします。いわゆる歌劇は、独立した各楽曲の中に、台詞や進行を会話に近い形で歌うレチタティーヴォや登場人物の心情を叙情的、旋律的に歌うアリアが設けられ、アリアの歌唱後には拍手を受けるなど、場面ごとに区切られて演奏さ

れます。これに対し、楽劇は、無限旋律やライトモチーフの手法を用いて、曲全体が切れ目なしに続く中、音楽と劇が一体的に進行していきます。また、ライトモチーフの導入は、登場人物の行為に、旋律による別の表現を付け加える(台詞や演技と裏腹の旋律が奏されることで隠された心情を表す)など、物語の表現に深みを与えることにも寄与しています。

ワーグナーの主な作品では、「リエンツィ」「さまよえるオランダ人」「タンホイザー」「ローエングリン」などは、楽劇とは呼ばれず「トリスタンとイゾルデ」「ニュルンベルクのマイスタージンガー」「ニーベルングの指環」「パルジファル」が楽劇と呼ばれております。なお、ワーグナー自身は、楽劇というのが好みではなかったのか、これらの作品に「楽劇」と付けておりません。例えば「トリスタン」は、「3幕からなるハンドリング(行為、筋書き)」とされています。物語としての進行がほとんどなく、トリスタン(3幕)やイゾルデ(1幕)、あるいは二人(2幕)の心情吐露が大半を占めているのが影響したとも言われております。

○歌劇「タンホイザー」 大行進曲

主人公の騎士タンホイザーは、吟遊詩人でもあり、領主の親族エリーザベトと清き愛で結ばれていましたが、官能をつかさどる異教の女神が支配する異界「ヴェュスベルク」に赴き、快楽の日々を過ごしていました。そんな日々で虚しさを覚え、故郷を思い出した彼は異界から帰還し、エリーザベトや旧友と再会します。

この日はちょうど歌合戦が開かれるということで、着飾った騎士や貴婦人たちが続々と会場に集まってくる、という場面で奏されるのが本日お届けする「大行進曲」です。

トランペットの華やかなファンファーレで幕を開け、歌合戦の威厳と華やかさを表した旋律が奏される中、芸術と平和を守る領主を讃え、祝祭が開かれることへの喜びを、合唱が高らかに歌い上げます。

歌合戦では、タンホイザーは官能的な愛について歌ったことで観衆の反感を買い、追放されてしまいます。行進曲の絢爛豪華な音楽の中にその先の波乱を少しも予感させないあたり、自ら台本を執筆していたワーグナーの計算がうかがえます。

○歌劇「ローエングリン」 エルザの大聖堂への行列

10世紀のアントワープ、弟殺しの罪を着せられた公女エルザは、白鳥の曳く小舟に乗った聖杯の騎士ローエングリンに助けられます。色々あって、彼と結婚式を挙げる日の朝、居城から大聖堂に向かう場面の楽曲です。純粋な喜びと厳粛な気持ちでエルザが歩みを進めていくと、民衆や貴族たちが列をなして彼女の美しさや徳を讃えながら、花嫁の行列は大聖堂前に到着します。

冒頭、フルートやクラリネットなどの木管楽器が、エルザの純潔さを表す清らかなテーマを奏でます。行列が進むにつれて弦楽器が加わり、その響きは徐々に厚みを増していきます。民衆の祝福の歌声が合流した後、金管楽器も交えた壮大なクライマックスを迎えます。劇中では、曲の終わりに悪役の邪魔が入り、物語が大きく動くことなのですが、今回は別場面のコーダ部分を転用して演奏いたします。

○楽劇「トリスタンとイゾルデ」より

この作品では、中世の宮廷詩人たちが語り伝えた、騎士トリスタンと、その主君マルケ王の妃となったイゾルデの悲恋が描かれます。当時のワーグナーは、政治犯として指名手配され、スイスに逃亡中でしたが、彼の支援者の妻との恋愛（と言うか不倫）が、作品に反映されていると言われております。「あらゆる夢の中でも最も美しいこの主題のために一つの記念碑を打ち立て、そこで愛の耽溺のきわみを表現したい」との言及が残されているほか、支援者の妻が作った詩に基づいた歌曲集を作曲し、その中から楽劇の中に旋律が転用されています。

余談ですが、後年、本作品の初演時、指揮者の奥様がワーグナーと不倫関係にあり（後に離婚してワーグナーと再婚）、マルケ王のような立場で指揮を務めていたとか

いないとかというエピソードがあります。指揮者さんは後に反ワーグナー派の急先鋒となったことから、現実では、物語のように寛大さが示されることはなかったようです。

第1幕への前奏曲と第3幕の終結部である「イゾルデの愛の死」は、全曲の初演に先立って演奏会形式で発表されたことにちなみ、現在でも独立して演奏されることが多く、道響でも過去に取り上げております。

<トリスタン和音>

本作でよく知られているのが、前奏曲の冒頭現れる「トリスタン和音」です。

通常、不協和音の不安定な響きは、安定した協和音へと解決されることで、聴き手に安心感を与えます。しかし、ワーグナーが示した「へ音・ロ音・嬰二音・嬰三音」からなる和音は、解決すると思った瞬間に不安定な響きに移行し、決して安定した和音に辿り着きません。この不安定な和音構成は、作品全体を通じて繰り返され、登場人物たちの満たされることのない愛や、死への憧れを具現化することに寄与しています（全曲の冒頭、この和音が響いてから、解決するのは劇の終わり近くまで3時間ほどかかります）。

従来の枠組みに収まらないこの和音の響きは、ブルックナー、マーラー、ドビュッシーらが作品に取り入れ、近代の無調性音楽への扉を開くきっかけとなったとも言われています。

<あらすじ>

第1幕

コーンウォール（現在のイギリス南西部）のマルケ王のもとへ嫁ぐアイルランドの王女イゾルデと、彼女を護送する騎士トリスタン。トリスタンはイゾルデの婚約者を倒した仇でしたが、かつてイゾルデは瀕死の状態の彼を殺しきれずに助けたことがあり、敵同士ながらお互いに惹かれ合っていました。イゾルデは死を決意し、トリスタンに毒杯を勧めますが、侍女がこれを「愛の妙薬」にすり替えてしまい、二人が杯を干した瞬間、抑圧されていた激しい愛が爆発します。やがて船はコーンウォールに到着し、歓迎のラッパが鳴り響きます。

第2幕

深夜のマルケ王の城、狩りに出かけた王の留守にトリスタンに再会しようと、松明を消して合図しようとするイゾルデ。侍女ブランゲーネが、狩りの催し自体が罠であること、トリスタンの親友でもある王の家臣メーロトに気をつけるよう警告しますが、イゾルデは取り合いません。松明が消されるとトリスタンが登場し、二人は固く抱擁します。愛の陶酔に浸りながら、「昼」の理性を忌み嫌い、永遠に結ばれる「夜（死）」の世界を賛美する二人でしたが、そこへ王たちが戻り、二人の関係が露呈します。王の問いにトリスタンは応えず、イゾルデに「夜の国」に共に行ってくれるかと話しかけ、イゾルデもこれに応じます。怒りに燃えて切りかかるメーロトに身を投げ出したトリスタンは深手を負います。

第3幕

瀕死のトリスタンは居城でイヅルデの到着を待ち焦がれています。ついにイヅルデが到着しますが、トリスタンはその腕の中で息絶えます。後を追ってきたマルケ王は二人のいきさつを知り、すべてを許そうとしますが、時すでに遅く、イヅルデもまたトリスタンの遺体に寄り添い、至福の中で愛の死を迎えます。

<抜粋について>

第1幕への前奏曲

チェロによる「愛の動機」で静かに、しかし意味深長に始まります。直後に木管楽器が重なり、前述の「トリスタン和音」が響きます。ここから音楽は、解決することのない緊張と弛緩を繰り返しながら、うねるような大波となって高揚していきます。決して満たされない憧れ、疼くような愛の苦しみ、緻密なオーケストレーションによって描かれます。頂点を築いた後、音楽は再び静寂へと戻り、幕開けの不吉な予感を残します。

第2幕

第2幕は、音楽史に残る長大かつ濃密な「愛の二重唱」が核となります。オーケストラは単なる伴奏ではなく、登場人物の心理を語る主役としても機能します。

遠くから聞こえる狩りの角笛(ホルン)の響きで幕開けとなりますが、これは現実世界である「昼」の象徴です。角笛の音が遠ざかるにつれ、トリスタンとイヅルデを包む「夜」の世界が支配的になります。

トリスタンに早く会いたいイヅルデ、愛の妙薬を渡した後悔に苛まれながらも主人を諫める侍女ブランゲーネの心情がドラマティックに描かれます。やがて逢引の合図として松明が消され、二人が再会すると音楽は激情の渦となりますが、次第に哲学的な静寂へと沈潜していきます。二人は、偽りに満ちた「昼」の世界を拒絶し、死によってのみ永遠に結ばれる「夜」の世界を賛美していく、「愛の二重唱」が繰り広げられます。

二人が陶酔する中、遠くから見張りに立つブランゲーネの警告の歌声が響きます。徐々に夜が明けていくのですが、二人の思いは止まりません。愛の死のモチーフがまさに成就しようとした瞬間、マルケ王の突然の登場に伴うオケの全奏が残酷に鳴り響きます。マルケ王が嘆きながらトリスタンに問いかける場面ではバスクラリネットによる沈痛な旋律が奏されます。トリスタンとメーロトの対峙する様子がオーケストラ全体で劇的に奏され幕となります。

第3幕への前奏曲

冒頭、弦楽器が重苦しく上昇する旋律を奏で、瀕死のトリスタンが味わう終わりのない苦痛と、彼の居所を取り巻く荒涼とした風景を表します。幕が開くタイミングでイングリッシュ・ホルンの独奏が続きます。「羊飼いの笛」と呼ばれるこの哀切な旋律が、解決することのない悲しみに包まれた境遇を切々と歌い上げます。

本日は演奏いたしません、この羊飼いの笛の旋律は、後にイヅルデの船が見えた場面で歓喜の旋律へと変化する構成となっており、ワーグナーの巧みな作曲技法がうかがえます。

イヅルデの愛の死

前奏曲で提示された「愛の憧れ」が遂に成就されます。イヅルデは、トリスタンと共にいられる死の世界こそが真の救済であると悟り、法悦の境地へと達します。音楽は徐々に明るさと透明度を増し、波が引いていくような穏やかさの中で、最後の最後によりやく完全な協和音へと解決し、愛の苦悩が浄化され、魂が解放される瞬間を迎えて物語が終わります。

道響でワーグナー作品の1幕を全曲演奏するのは、初めての挑戦です。様々な皆様のお力添えを得て、本日のステージを迎えることができ、改めて感謝申し上げます。

奇しくもワーグナー作品の総本山ともいえるバイロイト音楽祭では、本年、史上初の試み(「リエンツィ」の上演)がされるそうで、未知の領域に挑戦する心意気は本家に負けないよう、素敵な歌声のソリストの皆様やワーグナーへの想いにあふれた中城先生のお力を借りながら、「愛のきわみ」をお届けできればと思います。

(Trb.太田 博之)

医療法人 宮の沢小池こどもクリニック

理事長 小池 明美

〒063-0061

札幌市西区西町北20丁目3-10

SR宮の沢メディカルビル 3F

TEL 011-669-5551 FAX 011-669-5552

WEB <https://www.koike-child-clinic.com/>

市営地下鉄
東西線「宮の沢」駅
5番出入口から
徒歩5分

駐車場40台あり



月・火・木・金	9:00~12:00	13:30~17:00
水	9:00~12:00	
土・日・祝日	休診	

こどもの肥満の相談に応じます。

Member

川越守記念北海道交響楽団 (*は運営委員)

Honorary
Music Director
故・川越 守

Conductor
中城 良

Assistant Conductor
山田美穂

Trainer
河邊 俊和
山田美穂

Violin

大島 沙紀子
大島 淳二郎
大島 楓優子
岡野 聡美
尾田 依子
小野 裕介
加進 淑代
小池 隆夫
小林 道子*
小齋 藤昌史
佐藤 直樹
佐藤 澤一也*
関根 聖美
田尻 果納子
柘植 純一
辻野 優勝*
堤 香織
出崎 まどか
戸島 健二郎*
鳥海 尚久
中山 和雄
藤村 維子
山田 恵子

Viola

秋山 愛美
阿部 萌花
太田 清子
柿崎 明子
金澤 美世
木村 舞江
澤本 マサ江
清水 美穂*
清水 友紀子
則武 剛士
村松 ゆかり
柳原 万智子

Violoncello

井上 愛香
大島 紀一郎
柴垣 匠汰
十二村 仁美
中川 靖子
林 麻子
吉田 大*
吉野 巖

Contrabass

石橋 明浩
狩野 康弘
嶋崎 浩一
清水 勝
内匠 梓之介
丹治 かりーナ
安田 慎一*

Flute

佐藤 留美
新山 千穂
福士 江里
細野 雅子*
増田 育子

Oboe

蝦名 未希子
中村 丞
前田 麻亜子
前鼻 昌司*

Clarinet

安藤 寧子
加納 利恵子
佐藤 美知子
橋本 久美*

Fagott

蠣崎 悌司
加進 聡
齋藤 秀輝*
中島 健太
林 珠代

Horn

相原 聡子
大原 秀紀
金本 歩乃佳
郡司 和弘
佐藤 佳代
曾根 輝雄*
西村 真智子

Horn Banda

岩元 千風
牛田 永真菜
坂本 一真
高橋 由凜子
濱中 大輔
福田 凌大
麓 ほたる
山内 沙也果
吉田 浩

Trumpet

神田 拓海
林 正樹
三好 健二郎*
村中 優美

Trumpet Banda

北川 遥菜
谷尾 哲
中谷 篤拓
前田 亜衣子
松浦 一舞希
松原 康稀

Trombone

上田 英樹
大島 淳二郎
太田 博之*
奥 聡
貝森 康夫

Tuba

萩 中正樹

Percussion

荒川 夕葵
岡本 千尋
中田 昌樹
能智 洋*
矢野 慎之介

Harp

武川 奈穂子

Organ

吉村 怜子

Stage Manager

海藤 正吾
伏見 寛之

道響オペラコーラス

Choral Director

大嶋 恵人
Piano
薦谷 奈緒

CHOR AION

Soprano

出水 京子
神田 祥子
千秋 麻子
竹田 久美
八木 裕子
山口 ふゆ子
和田 和美

Alto

石川 希
石川内 清美
進藤 裕美子
高田 麻理
田中 結
中嶋 節子
福田 聡子
柳田 美奈子
吉江 章子

Tenor

大場 隆一
寺岡 崇
能登 雄大
福田 陽一朗
山田 光明
山吹 達也
Bass
小磯 尚裕

札幌混声合唱団

Soprano

池田 みゆき
小山 美保
北山 里美
スタイン 真美子
福本 留美子
本間 久美子

Alto

藤崎 典子
松原 いづみ

Tenor

狩野 文伸
スタイン ケビン
Bass

石川 孝法
高村 光介
福本 研吾
山方 太郎

札幌放送合唱団

Soprano

森田 萌美
Alto

小林 寿子

清野 幾久子

武藤 淑子

Tenor

鈴木 敏正

田中 直

Bass

油谷 一徳

葛西 智一

高橋 彰

北大合唱団

Tenor

荒木 椋太
粕谷 勇登
鹿ノ内 陽介
Bass
クトミ 佳祐
山内 匠

北大混声合唱団

Soprano

千葉 風由季
村上 優歌

Alto

青井 陽奈子

Tenor

辻 隆平

中村 健太

Bass

菅 眞聡

札幌メルクワイア

Tenor

池田 修

岡村 俊二

金谷 隆

河島 雅生

小平 権

小松 昭彦

高岡 重秋

日山 京一

前鼻 昌司

Bass

稲田 徹

大串 宏明

大高 英夫

塩見 徳夫

アンサンブル・グランス

Soprano

大内 淑枝

小石 直美

古島 典子

土肥 聖子

Alto

齋藤 恵子

中野 美千代

中宮 典子

柳澤 美砂子

渡辺 満枝

Tenor

川瀬 晃良

沼瀬 仁

村山 岳史

Bass

黒田 明慈

中野 好則

渡辺 多加志

個人参加

Soprano

屋敷 一好

Tenor

住吉 雅貴

鶴田 正道



アンケートにお答え頂いた方の中から30名様を次回演奏会にご招待いたします。
上のQRコードから回答フォームにお入りください。

